

2022年1月20日

大腸癌術後サーベイランスにおける腫瘍マーカー測定意義の検討

◆研究の目的と概要◆

当院では、大腸癌の手術後の経過観察方法について調べています。本研究では、腫瘍マーカー測定とCT検査の両方で転移再発の有無を監視する現在の方法で、腫瘍マーカー測定の意義について検討し、今後のよりよい診療を行うことを目的としています。

◆対象となる患者さん◆

2010年1月から、2016年12月までの間に大腸癌の根治手術を当院で受けられた方。

◆研究に使用される情報◆

年齢、性別、身長・体重、既往歴、生活歴、身体所見、血液検査所見、腫瘍マーカー値、画像検査所見、手術所見、術前・術後の治療経過、病理検査所見、術後経過観察所見、予後情報

◆研究方法◆

本研究は過去の診療録（カルテ）等からの情報を利用します。

-
- * 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
 - * 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。
 - * 論文化した後は、用いた情報の除外は困難となります。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院
外科 研究責任者 横田 満

E-mail: kenkyu★kchnet.or.jp（臨床研究センター）
（★を@に変換して使用してください）

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって「社会的に重要性が高い研究である」等の特段の理由が認められ、実施についての承認が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明